

第 61 回「事業継続推進機構（BCAO）仙台地域勉強会」 議事録

1. 日時：2022 年 9 月 2 日（金）17 時から 18 時 30 分まで
2. 場所：Zoom
3. 参加者：22 名

議題：「避難訓練に関する情報交換」

発表 1：東北大学災害科学国際研究所 丸谷 浩明 教授

「災害科学国際研究所の避難訓練の実施状況」

発表 2：丸和運輸機関・フクダ・アンド・パートナーズ 丸谷研究室共同研究員

「仙台市の帰宅困難者訓練に参加して」

○質疑応答（Q：質問 A：回答 C：コメント）

Q, 夜間の避難訓練は実施しているか？

A, 夜間の訓練はやったことがない。災害研で夜間に残っている人が少ないため。参集訓練の必要性は感じているが、夜間は参集せず WEB 会議する方が安全だということが分かってきた。青葉山は急な坂や沿道に崖崩れの危険もあるため、夜間に車で向かう際に二次災害の被害も起きる可能性がある。

Q, 安否確認システムは使っていないのか。

A, システムは、大学全体のものを使用している。ただし、屋外に出てしまうと結果を把握することが難しく、対面とシステムの両方をやっている。安否確認システムの訓練は毎年実施している。

Q, 自衛消防隊の役割者が館内にいない場合の予備の設定や、主要なメンバーが参集できない場合の訓練を実施しているか。

A, 教員は出張や外出で不在が多い。各消防隊の班長は准教授クラスの教員とし、副班長は事務部の係長クラスにしている。事務職員は教員よりは所内にいる確率が高いが、在宅勤務もしており、両方ともいないケースが起り得る。そうなった場合、事務の別の方が代わりをやるか、隊長・副隊長、あるいは経験者が代わりにやることになるだろう。書いてある通りやるのが一般で、専門性はそれほど要らない。

Q, 他の学部、建物との合同訓練などはどうか。

A, 避難訓練は、他の学部と合同はやっていない。大学本部の訓練日に合わせてやる学部等もあるが、災害研は大学本部の訓練の主催者となるので同日には開催出来ない。他の学部との連携は、周辺で衛星携帯電話や非常用電源を持って箇所、守衛がいる場所をBCPに書いて、ピンチの場合に周辺へお願いに行く連携ができるようにしている。

Q, 帰宅困難者訓練の被害想定は？

A, 三陸沖を震源とした地マグニチュード8.0、市内の最大震度が6強という想定。

Q, アエルの5階へはどのような手段で向かったか。

A, 非常口から階段で5階まで上がった。

Q, 体調不良者は階段で上がったのか。

A, 体調不良という設定の人はいなかった。

C, 今回、アエルの5Fを一時滞在場所として使用したが、実際の一時滞在場所は1Fと2F。仙台駅の場合は現在23箇所の一時滞在場所があり、様々な事業者の方と協議会を開いている。